音楽祭にみる大規模イベントの成立条件と地域経済効果

～イタリア「ヴェローナ市」における世界合唱祭に参加して～

社団法人　中国地方総合研究センター
常務理事　山　本　定　男

平成２年８月４、５日の両日、古代ローマの遺跡「野外劇場」を利用した音楽祭で有名なイタリア北部の「ヴェローナ市」において、広島の被爆45周年および世界平和を祈念し、世界各国からアマチュア合唱人約3,200人を集めて世界合唱祭が開催された。筆者はこれに合唱団員として参加するとともに、これを機会に大規模イベントである音楽祭がどのような形で開催されているのか、その成立条件は何かなどに関心をもって調査した。

この小論は、現地での体験や調査と各種の文献を参考にして、ヨーロッパにおける夏期音楽祭の開催状況と成立条件、ヴェローナ音楽祭や今回開催された世界合唱祭の状況、ヴェローナ音楽祭の地域経済効果、さらに今後日本や地域における音楽祭開催の可能性などについて考察したものである。なお、現地での関連データがなかなか得難く、地域経済効果などについては不十分なものとなっていることをお許し頂きたい。しかし、広島でも1994年にはアジア競技大会が開催されるところから、アフターコンベンションを充実する必要があり、また、各地で色々な国際交流が活発化しているところから、今後このような国際的な音楽祭の開催についても十分検討しておく必要があるものと考えている。

第１章　ヨーロッパにおける夏期音楽祭の開催状況と成立条件

ヨーロッパでは、各地で夏期を中心に数多くの音楽祭が開催されており、日本からも音楽祭鑑賞ツアーが組まれているが、これらを全部把握することは難しいところから、その主なものについて開催状況を紹介するとともに、それらの音楽祭の成立条件について考察してみたい。

１．夏期音楽祭の開催状況と成立条件

ヨーロッパにおける夏期音楽祭の開催状況をまとめてみると、表２のとおりであるが（参考までに日本の代表的な音楽祭（表３）も掲載）、その発生起源などから音楽祭の性格を分類してみると、次の表１のように、古代遺跡等の「施設の活用」から始まったもの、オペラの作曲家の生誕地等の「音楽の歴史」に起因しているもの、毎年「特定の

テーマ」を設けて開催しているものなどに分類することができる。なお、全部の音楽祭について性格を把握することができなかったので、表1の分類は一部のものに留まっているが、概ねこの3つのタイプにあてはまるものと思われる。また、単一の目的だけでなく、特定テーマと施設利用等を複合した性格をもっているものもある。

表1　ヨーロッパにおける主要音楽祭の性格分類

分　　類	開　　催　　地
施設利用型	ヴェローナ、アテネ（古代の遺跡） サヴォリンナ　　（古城、森と湖の自然） オランジュ　　（ローマ時代の円形劇場）
音楽歴史型	ザルツブルク（モーツァルトの生誕地） バイロイト　（ワーグナーの生誕地） ペーザロ　　（ロッシーニの生誕地） プラード　　（世界的チェロ奏者カザルスの避難地）
特定テーマ型	アヴィニヨン（新しい作品発表） エディンバラ（太平洋と東欧諸国の音楽・演劇） サヴォリンナ（日本のオペラとオーケストラ）

（注）開催地の国名は表2を参照

表2　ヨーロッパにおける90年夏の音楽祭

国　別	音楽祭の名称	開　催　期　間	公演回数	主　な　演　奏　種　目
ド　イ　ツ	ルートヴィヒスブルク音楽祭	5月19日～10月6日（141日間）	22回	バレエ、オーケストラ、オペラ、室内楽
	ミュンヘン・オペラ祭	7月6日～31日（26日間）	27回	オペラ（国立劇場、キュヴィリエ劇場）
	バイロイト音楽祭	7月25日～8月28日（34日間）	30回	ワーグナー作曲のオペラ
4ケ所	ベルリン芸術週間	9月1日～30日（30日間）	52回	オーケストラ、室内楽、オペラ、バレエ
オーストリア	ブレゲンツ音楽祭	7月20日～8月22日（34日間）	36回	オペラ、オーケストラ
2ケ所	ザルツブルク音楽祭（70年の歴史）	7月26日～8月31日（37日間）	90回	オペラ、オーケストラ、室内楽
ス　イ　ス	ルツェルン音楽祭	8月15日～9月8日（25日間）	23回	オーケストラ
2ケ所	モントル＝ヴヴィエ音楽祭	8月25日～10月7日（44日間）	18回	オーケストラ、合唱祭
フランス	アヴィニヨン音楽祭	7月8日～22日（15日間）	不明	日本人の作曲家の作品発表
	オランジュ音楽祭	7月6日～9月1日（58日間）	7回	オペラ、宗教曲（日本人歌手1名出演）、交響曲
	エクサン・プロバンス音楽祭	7月12日～29日（18日間）	18回	オペラ、宗教曲、古典楽器演奏
4ケ所	プラード音楽祭（第40回）	7月25日～8月13日（20日間）	20回	オーケストラ、室内管、器楽

国　別	音楽祭の名称	開催期間	公演回数	主な演奏種目
イタリア	スポレート音楽祭	6月27日～7月15日（19日間）	16回	オペラ、オーケストラ、バレエ
	アレーナ・ディ・ヴェローナ音楽祭（第68回）	7月5日～9月2日（60日間）	54回	オペラ、宗教曲、声楽
	マチェラータ・オペラ祭	7月14日～8月14日（32日間）	17回	オペラ、宗教曲
	ペーザロ、ロッシーニ・オペラ祭（第10回）	8月1日～19日（19日間）	8回	オペラ
	ラヴェンナ音楽祭	7月1日～31日（31日間）	10回	宗教曲、オーケストラ、声楽
	ストレーザ音楽祭	8月23日～9月18日（27日間）	11回	オーケストラ、室内管，ピアノ
	トリノ音楽祭	8月30日～9月21日（23日間）	50回（昼夜）	室内管、オーケストラ
	タオルミーナ・オペラ祭	10月10日～21日（12日間）	10回	オペラ、声楽、合唱
9ケ所	アッシジ音楽祭（第12回）	7月15日～8月5日（22日間）	不明	広島原爆45周年・平和コンサートほか
イギリス	エディンバラ音楽祭	8月12日～9月12日（32日間）	不明	オペラ、演劇（韓国、オーストリア、ニュージーランド、インド、日本）
スペイン	サンタンデール音楽祭	7月26日～9月2日（39日間）	20回	バレエ、国際ピアノコンクール、オーケストラ
フィンランド	サヴォリンナ音楽祭	6月30日～7月29日（30日間）	37回	オペラ、バレエ、二期会（日本）によるオペラ、オーケストラ（東京都響）
	クフモ室内楽フェスティヴァル	7月15日～29日（15日間）	不明	室内楽が主、韓国の音大生も参加
3ケ所	ヘルシンキ音楽祭	8月23日～9月9日（18日間）	11回	オーケストラ、室内楽
その他	フランダース音楽祭（ベルギー）	4月～10月（7ケ月間）	35回	オーケストラ、室内管弦楽、器楽
	ドロットニングホルム・オペラ祭	5月31日～9月4日（97日間）	不明	オペラ、室内管
	イスタンブール音楽祭	6月15日～7月25日（41日間）	11回	オーケストラ、室内管、器楽、ミュージカル
	アテネ音楽祭（古代遺跡あり）	6月8日～9月5日（90日間）	34回	バレエ、オーケストラ、室内管
計 29ヶ所				

資料：音楽の友90年7、10月号（音楽之友社刊）

表3　日本における90年夏の代表的な音楽祭

都道府県別	音楽祭の名称	開催期間	公演会場	主な演奏種目・特徴
北海道	第4回帯広ひろびろ音楽祭	8月1日～4日（5日間）	帯広市民文化ホール 観客動員数 1,700人	帯広市内の若手実業家数人が中心となって昭和62年に実行委員会を組織、地元有志による「手作り音楽祭」 ベートーベン弦楽四重奏曲の連続演奏シリーズ、チェンバロによるバロック音楽、バッハの夕べ、ショパンピアノ曲など
群馬県	第11回草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティヴァル	8月17日～2週間	天狗山レストハウスほか	国際的な音楽家を招き音楽講習、中国や韓国からも受講者 群響によるオーケストラ、歌曲など
東京都	第6回<東京の夏>音楽祭	7月9日～29日（21日間、14回公演）	草月ホール、サントリーホール	主催団体：アリオン音楽財団、朝日新聞社 今年のテーマ：「ジプシー、そして西洋音楽」、ハンガリーのジプシー民俗音楽、ロシアのジプシー楽団、スペインのフラメンコなど

都道府県別	音楽祭の名称	開催期間	公演会場	主な演奏種目・特徴
熊本県	第6回熊本国際青少年音楽フェスティヴァル	8月5日～	グリーンピア南阿蘇の施設（外輪山の斜面を活用）、熊本芸術劇場	アジア・ユース・オーケストラ（AYO）（アメリカ人音楽家提唱、87年設立）の誕生公演（日本19人、韓国9人、台湾19人、香港31人、フィリピン9人、タイ6人、シンガポール8人、年齢12～26歳）、その他、熊本ユース・シンフォニー・オーケストラ、西独のバンド、韓国の女声合唱団などが出演

資料：音楽の友90年10月号（音楽之友社刊）

2．夏期音楽祭の開催地

ヨーロッパにおける夏期音楽祭の開催地をみると図1のとおりであるが、それらを分類してみると概ね次の2点にまとめられる。

(1)開催地はヨーロッパ大陸の中・南部が多く、国別ではオペラに伝統をもつイタリアが多い。

(2)首都等の大都市よりも音楽にゆかりのある中小都市やリゾート地が多い。なお、音楽祭の中で最も有名なのは、オーストリアの「ザルツブルク音楽祭」、ドイツの「バイロイト音楽祭」、イタリアの「ヴェローナ音楽祭」などで、それぞれ特色をもつているが、量・質とも世界最高水準にあると言われているのは、ザルツブルク音楽祭である。

3．音楽祭が夏期に行なわれる理由

ヨーロッパでは、何故にこのように夏期に大きな音楽祭が開催されるのかを考えてみると、次のように「供給面」と「需要面」さらに「気象条件」に有利性があるためと考えられる。

(1) 供給側の利点

①ヨーロッパには、著名なオーケストラやソリスト等が多く、かつ夏期は音楽のオフシーズンであるため、演奏者が確保し易い。

②オペラハウスや古代の遺跡など、演奏会場が多い。

(2) 需要側の利点

①夏期はバカンスシーズンであるため、観光・リゾート地には多くの人が集まってくる。

②歴史的な都市や魅力ある観光地が多いので、音楽祭と観光をセットにして、世界中から音楽ファンを呼び集めることができる。

図1　ヨーロッパにおける夏期音楽祭の開催都市

③ヨーロッパ大陸は、陸続きの国が多いので、車（自家用車・バス）での移動が容易であり、鉄道・航空路も発達している。

(3) 気象条件

①雨が少なく（年間降雨量はほぼ日本の１／３）、夜の蒸し暑さがなく、空気が乾燥しており、屋外での演奏も可能である。なお、良い音をつくるためには、空気が乾燥していることが重要な条件である。

4．ヨーロッパにおける音楽祭の成立条件

このような状況から、ヨーロッパにおける音楽祭の成立条件を考えてみると、音楽祭が夏期に行なわれている理由が即音楽祭の成立条件とみることができるが、そのほか音楽に対する国の支援などもあり、概ね次のようにまとめられる。なお、アフターコンベンションとしての利点としている点は、必ずしも夏場に限ったことではないが、今後地域でもアフターコンベンションの重要性が高まっているところから参考としてあげておいた。

(1) 音楽の素材の存在

・世界的な楽聖を生んだ歴史、オペラの発祥の地
・豊富なソリスト、オーケストラ、合唱団、演出家等の存在
・歴史的なオペラハウス、音楽ホール、古代遺跡の存在
・ヨーロッパでオペラ等を鑑賞するのは世界の音楽ファンのあこがれ

(2) 交通条件

・陸続きで広域移動が容易なヨーロッパ大陸

(3) アフターコンベンションとしての利点

・ウィーンが好例（国際会議と夜の演奏会）
・街が音楽的で楽しい（大道芸人やクラッシックカラオケ）
・観光地やリゾート地が多い
・各種の音楽会があって選択の余地が多い

(4) その他

・文化に対する国家や国民の理解と支援がある
・新聞等も大きく報道し、その批評が重視される
・夜が短く、乾燥した気象条件

第2章　ヴェローナ音楽祭（オペラフェスティバル）の状況

イタリアの「ヴェローナ音楽祭」（オペラフェスティバルとも言う）は、歴史も長く、古代ローマの遺跡「野外劇場」を活用しているところにその特徴を有しているが、演奏会場としての施設面ではいくつかの欠点もみられる。ヴェローナ音楽祭の概要を紹介するとともに、その長所・短所をまとめてみると次のとおりである。

1．音楽祭の歴史

1913年から始められたもので、第１大戦（1915年～18年）、第２次大戦（1940年～45年）の間を除いて、毎年夏期にオペラを主に開催され、1990年で68回目を迎えた。過去２年間の公演実績および91年の予定は次のとおりである。

2．過去２年間の公演実績と91年の予定

第67回（1989年）7.1～8.31の62日間中、42回公演

ヴェルディ作曲オペラ「ナブッコ」11回
ヴェルディ作曲オペラ「アイーダ」13回
ヴェルディ作曲オペラ「LA FORZA DEL DESTINO」11回
マスカーニ作曲オペラ「カバレェリア・ルスティカーナ」ほか７回

第68回（1990年）7.5～9.8の66日間中、53回公演

ヴェルディ作曲オペラ「アイーダ」15回
ビゼー作曲　オペラ「カルメン」　10回
プッチーニ作曲オペラ「トスカ」　12回
ヴェルディ作曲宗教曲「レクイエム」２回（世界合唱祭）
テオドラキス作曲オペラ「ゾルバ・イル・グレコ」５回
ガッリコ作曲　オペラ「オルフェオ」８回
「テノールコンサート」　１回

第69回（1991年）予定7.3～9.1の61日間中、43回公演

ヴェルディ作曲オペラ「リゴレット」12回
ヴェルディ作曲オペラ「ナブッコ」　12回
ヴェルディ作曲オペラ「トゥランドット」12回
プロコフィエス作曲オペラ「ロメオとジュリエット」５回
オーケストラ公演　２回
（資料）Arena Di Verna 1990（プログラム）

3．ヴェローナ音楽祭の長所・短所

(1) 演奏会場（古代ローマの遺跡）の存在

①25,000人収容の大型会場で、観客収容数が多いところから採算面では有利であり、遺跡という歴史的な魅力をもっている。なお、この種の古代ローマの遺跡はローマ

とヴェローナに現存しているが、ヴェローナの方が原型をとどめていると言われている。

②楽屋、売店、トイレ等の付帯施設は貧弱で、雨で公演中止になる場合があるのが欠点である。

(2) 専属歌劇団を保有

専属の歌劇団を有し、わが国でも東京ドームで行われたアイーダ公演は、ヴェローナ歌劇団が出演したものである。

(3) 交通の便

国際空港を有するミラノから鉄道、高速道路が通じており、交通の便がよく、会場周辺にバス駐車場が配置されている。なお、オペラの観客の6割はドイツ人だと言われており、広域から観客を集めている。

(4) 宿泊・飲食施設

ヴェローナ市内（人口35万人）には、ホテルが少ないと言われており、オペラの観客の宿泊をすべて市内で賄うことは難しいようである。かなり周辺地域も宿泊を担っているものと思われる。なお、会場周辺には多くのレストランがあり、オペラの鑑賞前後の飲食に不便はない。

(5) 都市内および周辺の観光地（バスで1時間程度以内）

ヴェローナ市内や周辺に多くの観光地があり、音楽祭と観光・レクリエーションとの組み合わせが出来るという有利な条件をもつている。主なものをあげてみると次のとおりである。

・ヴェローナ市：教会、美術館
・パドバ市：教会、美術館、にぎわい、屋台、大学
・ヴィチェンツァ市：美術館、古典劇小ホール
・ベネツィア市：寺院、ゴンドラ、ヴェネツィアングラス、金細工
・ガルダ湖：美しい湖と周辺の景観、観光船、湖畔のリゾート・別荘地、湖畔のレストラン・屋台
・ブルキエロ：運河の船の旅
・ガルジニャーノ：クアハウス（美容・保養・温泉）

［参考］世界合唱祭に参加した日本人の宿泊地：
パドバ市の都市型ホテル　（ヴェローナからバスで約1時間）
ガルジニャーノ温泉ホテル（同1時間30分）

第３章　世界合唱祭の開催状況

今回筆者が参加した「世界合唱祭」は、1985年から始められたもので、まだ６年の歴史しかもっていないが、世界各国に組織を有し、合唱人の動員力や優秀な指揮者、オーケストラ、ソリスト等を結集する力はかなりのものがある。なお、被爆50周年の1995年には広島市での開催が予定されている。

１．世界合唱祭の歴史

この世界合唱祭は、世界フェスティバル合唱団（本部ノールウェー、略称 WFC）が主催し、世界各国のアマチュア合唱団や合唱人に参加を呼びかけて開催されている。1985年から毎年イギリス、ノールウェー、オーストラリア、シンガポール等の国々で、ヘンデルの「メサイア」やヴェルディの「レクイエム」を演奏している。

1990年は、特に広島の被爆45周年ということで、その追悼と世界平和を祈念して開催された（プログラムに広島県知事と広島市長のメッセージを掲載）。

２．ヴェローナにおける公演状況

開　催　日：90.8.4～5（2日間）PM9:00～10:40（8月6日に合わせて直前に開催）

合唱参加者：ノールウェー、スエーデン、デンマーク、西ドイツ、イタリア等の欧州諸国とアメリカ、オーストラリア、日本などから3,200人。日本から184人、うち広島から25人が参加した。

出　演　者：著名な演奏者を結集

指揮者：LORIN MAAZEL

オ　ケ：モスクワフィルハーモニックオーケストラ

独唱者：ソプラノ　SHARON SWEET

メゾS　DOLORA ZAJICK

テノール　LUCIANO PAVAROTTI

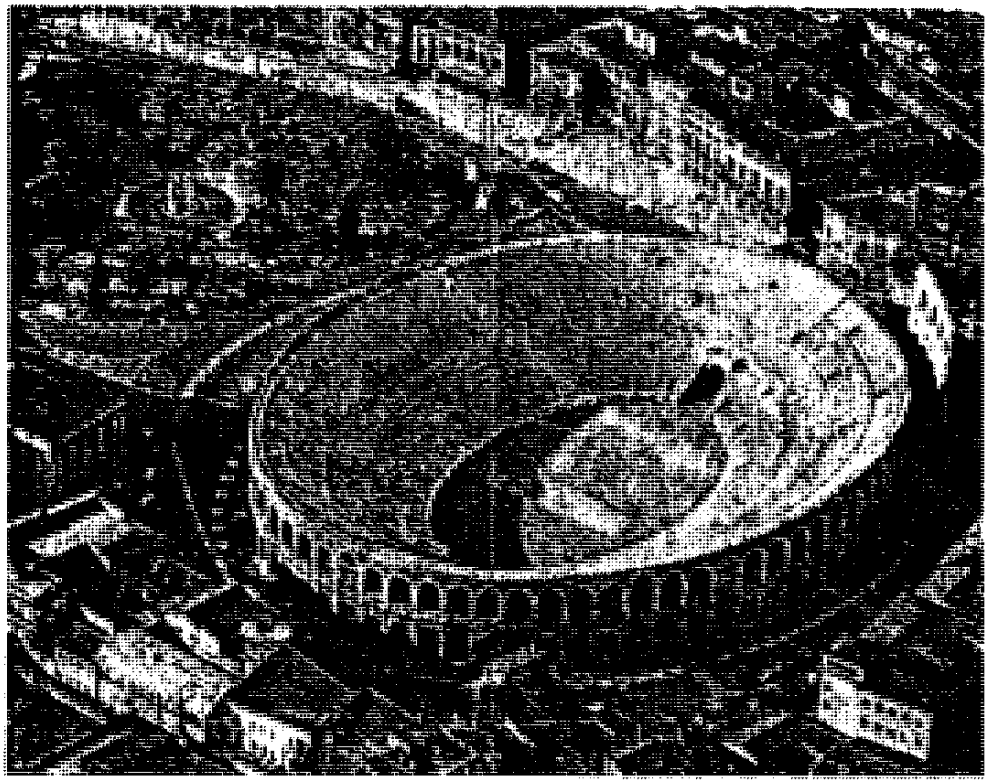
バス　PAUL PLISHKA

公演の反響：①テノールのパバロッティ氏（イタリアの国民的英雄）は、世界合唱団の水準を高く評価

②イタリア国営放送で放送、日本では8/15一部全国放送

③英国ダイアナ王妃が8/5の演奏を鑑賞

ヴェローナのローマ時代の遺跡：野外劇場の全景（観光パンフレットより）



世界合唱祭のプログラムに掲載された広島県知事と広島市長のメッセージ

HIROSHIMA PREFECTURAL GOVERNMENT

It gives me great pleasure to extend my warmest congratulation on this auspicious occasion of the 1990 World Festival Choir's concert at the Arena di Verona, where as many as 3.000 amateur singers from all over the world, including those from Hiroshima, have joined together to perform Verdi's requiem.

We, the people of the Prefecture of Hiroshima, welcome and applaud this international event with deep emotionas this year marks the 45th anniversary of Hiroshima's ordeal of the world's first nuclear bombardment . I am convinced that the concert will be a dignified memorial to Hiroshima's tragedy and a valuable contribution to the cause of world peace and solidarity.

As Governor of Hiroshima Prefecture, I am most delighted to offer my best wishes for the success of this important cultural event.

Toranosuke TAKESHITA
Governer

THE CITY OF HIROSHIMA

On the forthcoming August, thousands of singers and musicians from around the world will gather to sing Verdi's Requiem in the name of peace. I heartily commend all those whose devotion to the cause will carry them to Verona to join the World Festival Choir in this meaningful performance.

Since the atomic bombing on August 6, 1945, Hiroshima has continually appealed for the abolition of nuclear weapons and the realization of everlasting peace. We have tried to spread the "spirit of Hiroshima" which, like the World Festival Choir, seeks peaceful coexistence and prosperity.

Music is the universal language. I hope that the harmonies of friendship generated by the singers and musicians will carry the message of peace and cooperation to every corner of the world.

Takeshi ARAKI
Mayor of Hiroshima

第４章　ヴェローナ音楽祭の地域経済効果

１．ヴェローナ音楽祭の経済効果の推計方法

ヨーロッパ各地で行われている夏期音楽祭は、文化イベントであるため、元来経済効果を意図したものではないと思われるが、規模によつてはかなりの集客力があり、直接的な入場料はもとより、宿泊費、飲食費、交通費等の地域経済効果はバカにならないものがあると考えられる。しかし、各地の経済効果を把握することは困難であるため、ヴェローナ音楽祭について、いくつかの推計を加えて、音楽祭の観客数や音楽祭に関連する売上高を推計し、これを広島県内主要観光地の観光客数や観光消費額等と比較してみることによって、その規模や経済効果を把握することとした。その結果、観客数では大野町の観光客数を上回り、売上高は宮島町の観光消費額を大幅に上回る水準ある。（表４参照）

なお、オペラの公演は、通常「金食い虫」と言われ、国家的支援を得て運営しているオペラハウスが多いと言われているが、ヴェローナについては、施設が古代の遺跡で施設関連費は微々たるものであり、収容人員が大きいところから、かなり有利な面があるものと思われる。また、夏期以外は市内のオペラハウスを利用してオペラ公演が行なわれており、通年の観客数や売上高は相当額に及ぶものと思われる。

２．経済効果の試算結果

(1) 夏期公演の総観客数（以下※印は推計値）

定員25,000人×80％（入場者率※）×53回公演＝1,060,000人

(2) 直接音楽祭関連の売上高

入場料収入　1,060,000人×5,000円（平均入場料※）	＝53億円
プログラム販売　1,060,000人×50％（購入率※）×1,500円	≒８億円
売店等売上1,060,000人×50％（購入者率※）×1,000円（単価※）	≒５億円
小　計	＝66億円

(3) 関連売上高

宿泊費　1,060,000人×80％（外来客率※）×10,000円（単価※）	≒85億円
飲食･買物費1,060,000人×80％(外来客率※)×5,000円(単価※)	≒42億円
交通費（推計困難）	
小　計	＝127億円

(4) 総売上高　193億円（観客１人当り18,200円）

表4　広島県内主要観光地との比較（広島県内の数値は平成元年値）

観光地名	総観光客数(千人)	観光消費額(百万円)	同1人当り(円)
ヴェローナ音楽祭	1,060	19,300	18,200
広島市	9,155	76,027	8,304
福山・鞆の浦	2,915	11,746	4,030
宮島町	2,864	14,051	4,906
尾道市	2,699	8,261	3,061
呉市	1,614	3,007	1,863
大野町	988	3,476	3,518
みろくの里（沼隈町）	845	2,371	2,806
因島市	748	2,067	2,763
野呂山（安浦町）	695	76	109
音戸	616	494	802
土師ダム（八千代町）	501	234	467
首無地蔵（府中市）	500	1,360	2,720
グリーンピア安浦	493	?	?
ナタリー（廿日市市）	470	1,000	2,128
広島県全体	37,591	160,242	4,263

（注）平成元年の観光客数は、89年海と島の博覧会（県内23会場、約598万人）が開催されたため、開催地は前年に比べ大幅に増加している。
（資料）平成元年入込観光客の動向（広島県）

第5章　日本における音楽祭の可能性と実現策

ヨーロッパにおける音楽祭の状況からみて、今後、日本でも世界中から観客が集まるような音楽祭の実現が望まれるところであるが、ヨーロッパと日本の色々な条件を比較してみると、日本には多くの制約条件があり、その実現は容易ではないと考えられる。

1．音楽祭を実現する上でのヨーロッパと日本の条件比較

音楽祭を実現する上で、ヨーロッパと日本の条件比較を行ってみると、表5にみられるとおりであるが、この中で特に問題となるのは、演奏会場、演奏者、気象条件、国内交通費などである。

2．日本における音楽祭の実現策

このように条件比較をしてみると、日本で世界中から観客を集められるような音楽祭を実現することは、当面まず可能性に乏しいと言わざるを得ない。しかしながら、可能性に乏しいとばかり言っていたのでは、世界から評価されるような音楽芸術の発展はあ

り得ないし、地域活性化の観点からも何らかの実現策を打ち出す必要があろう。この面で考えられる対策は、次のとおりである。

(1) 世界的音楽専用ホールの建設

オーケストラの演奏の場合は、日本の多目的ホールでもさしたる問題はないと思われるが、オペラの上演の場合は、舞台転換を必要とするところから演奏会場が大きな問題となる。また、著名なオペラハウスにみられるように、オペラハウスそのものが演奏者にとっても観客にとっても大きな魅力となっている。参考までに、世界に三大オペラハウスはパリのオペラ座、ウィーンの国立歌劇場、ミラノのスカラ座であり、新人歌手にとっては、それらのオペラハウスに出演し認められることが大きな目標になっている。

表5　音楽祭を実現する上でのヨーロッパと日本の条件比較

項　目	ヨーロッパ	日　本
音楽の素材	・各国に世界的な演奏者が豊富で、夏期はオフシーズン ・各国で音楽に特色があり、著名な作曲家が輩出 ・歴史と伝統がある	・東京に集中、地方に少ない ・世界に通用する邦人作品はまだ少数、声楽家も女声は優秀な人が多いが、男声は少ない・日本語は発声面では未評価
音楽的な土壌	・クラツシック音楽のファン層が厚い ・国の芸術・文化に対する支援理解がある ・各地にオペラハウス等の演奏会場が多い ・新聞等の報道、評論	・オペラブームと言われているが、まだ少数派 ・国・国民とも芸術・文化に対する理解はまだ少ない ・日本のホールはほとんど多目的で専用ホールがない ・音楽評論等はまだ少ない
気象条件	・少雨、乾燥 ・内陸型の都市が多い	・多雨、高湿度 ・大きな都市は沿岸型
余暇の楽しみ方	・長期バカンスが定着 ・昼間はスポーツ、夜は音楽等の多様な楽しみ方ができる	・働き蜂 ・バカンスは子供優先
交通条件	・各地に観光・リゾート地が多く、広域移動が容易	・ヨーロッパからみれば極東地域（遠い国）、国内交通費が高い

そこで、わが国でも世界中の演奏家やオペラファンから羨望されるようなオペラハウス等の音楽専用ホールを建設する必要がある。わが国ではまだホールに対する認識が低く、単に「文化の発表の場」としか認識されていないが、ホールは「文化の発表の場」であると同時に「文化を育成する場」とすることが大切である。この点、パリに建設された「オペラ＝バスティーユ」は専用のリハーサルステージを有する画期的なものであ

り、わが国もその先例に学ぶべきである。(巻末の参考資料を参照)

(2) 日本の演奏家のレベルアップ

日本の演奏家は、国際的に活躍する人が多くなってきたが、オペラ歌手については、まだ国際的な水準に達しておらず、その育成とレベルアップが必要である。

(3) 世界に通用する作品の育成

90年はフィンランドのサボリンナ音楽祭で日本の作品が日本人の手で上演されたが、まだ世界各国で愛好され国際的に通用するような作品が生まれていない。優秀な作品の開発・育成が求められる。

(4) 行政や経済界の積極的な育成・支援

ヨーロッパ各国にみられるように、文化に対する国や経済界等の積極的な育成、支援が求められる。

(5) 音楽祭の事業主体の開拓・育成

音楽祭を主催し、実現に漕ぎつけるような熱意をもったリーダーや組織力のある事業主体を育てる必要がある。

(6) クラッシック音楽ファンの開拓

交響曲、オペラ等のクラッシック音楽のファン層が厚くなければ音楽祭そのものが実現できない。その点は成人を対象とした社会教育も重要であるが、子供の頃から音楽を含めた芸術文化への理解を高めるような環境づくりが必要であり、学校教育が重要である。

(7) アジア地域との音楽交流の積極化

わが国に適した音楽祭を色々と工夫してみる必要があるが、文化面の国際交流の観点からすれば、アジア地域との音楽交流を活発化することが重要となろう。

3．地方における音楽祭の実現策

広島市に例をとってみると、国際平和文化都市を標榜しメッセ・コンベンションシティを志向していること、4年後にアジア競技大会があること、アフターコンベンションの開拓が必要であることなどから、今後、音楽祭の実施も検討すべき重要な課題である。また、地域の活性化や文化振興の観点からも、各地においてもユニークな音楽祭の実現が望まれるところである。

広島で音楽祭を実現するに当たって、活用すべき資源、条件整備、目指すべき方向としては、次のようなものが考えられる。

(1) 広島で活用すべき音楽素材

①市民オペラの活発化

広島ではオペラの同好者による市民オペラが活発化しており、その育成とレベルアップを図り、音楽祭の素材として活用する。

②ヨーロッパとつながりのある音楽大学の存在

広島にあるエリザベト音楽大学は、ベルギーの神父によって開校されたもので、留学等でヨーロッパとのつながりもあるところから、海外の演奏者の確保、大学の人材等の活用をはかる。

③広島交響楽団の存在と行政や経済界の支援

オーケストラは音楽祭の必須条件であり、広島交響楽団は有力な素材である。広響に対しては、既に行政からの助成、経済界の支援（冠コンサート等）がなされているが、さらに育成・支援により、そのレベルアップを図ることが重要である。

④広島県合唱連盟等の文化組織とカーネギーホールで日本の高校合唱団で初公演した崇徳高校グリークラブ等の存在

音楽祭を実現するためには、組織力をもった事業主体を育成することが重要である。その点、広島県合唱連盟は全国大会の経験等を通じて組織力を有しており、その育成・活用が求められる。また、89年春、日本の高校合唱団では初めてニューヨークのカーネギーホールで公演するなど、全国水準にある合唱団が存在することも有力な素材である。

(2) 実現のための条件整備

①文化育成機能を有した国立オペラハウス等の誘致

わが国では、まだ本格的なオペラハウスが少ないが、東京の第二国立劇場に続いて、今後は地方においても建設が考えられるべきである。広島もその誘致を積極的に働きかけたいものである。

②練習場等の整備

文化を育てるためには、練習会場の整備が重要であり、広響もまだ専用の練習会場をもっていない。今後、各種の文化団体が十分に練習できるよう施設の整備が望まれる。

③音楽大学の地域開放

中国地方では、音楽の単科大学は広島と津山にあるが、これらは教育の場としてだけではなく、その人材、施設等をもっと地域に開放し、地域文化の育成に対する貢献が望まれる。

④市民ボランティアを含めた事業組織の育成・連携

合唱連盟を例にあげたように、音楽祭を実現するためには、組織力を有した事業主体の育成や市民のボランティア活動が重要であり、既存の各種文化団体の連携も進めていくべきである。

(3) 目指すべき方向

①アジア大会を契機としたアジア国際音楽祭の実現

広島にふさわしく、国際文化交流としても貢献できる音楽祭としては、アジア競技大会が開催されることでもあり、アジアの青少年と交流することが適している。その点、熊本に先例があるところから、その実施状況を調査し、広島においてアジア国際音楽祭を実現したいものである。

②テーマ型音楽祭の開催と継続＝広島は世界の音楽家の参加が可能

音楽祭の性格としては、将来的には総合的な音楽祭を目指すことが望まれるが、実績と経験を積む意味もあって、前述のようにアジアの伝統文化の発掘、青少年の育成など、特定の目的をもったテーマ型の音楽祭がふさわしい。また、音楽祭は継続し伝統を積み重ねることによって、その評価が高まり、地域からの情報発信にもつながっていく。なお、広島で開催する場合は、その目的・意義と国際的な知名度によつて、世界中から著名な演奏家の参加が可能である。

(4) 各地での音楽祭

①リゾート的環境を有した高原地域の活用

音楽祭はこれから各地で開催されることが望まれるが、夏期に行う場合は気象条件からみて、高原地域が適していると思われる。広島県では既に芸北町において、牧場等を利用した連続コンサートが行われており、草津や熊本も高原地域を利用している。

②ホール等の施設整備や既存施設の活用

瀬戸田町のベル・カントホールなど、地域においてもユニークなホールが建設されているところから、これらの活用を図るとともに、今後各地で特色ある施設の整備が望まれる。

4．まとめ

以上、ヨーロッパにおれる音楽祭の開催状況から、わが国や地域における音楽祭の実現について考察してきたところであるが、地域活性化の観点からも各地で盛んになることを期待しており、今後も先進事例等を調査し、その実現にいささかでも貢献したいと考えている。

[参考資料] パリの新しいオペラハウス　「オペラ＝バスティーユ」

場所：パリのバスティーユ広場に建築

ここは、有名な監獄のあった要塞を取り壊した跡地で荒れ果てた地

経緯：1982年3月9日、ここにオペラハウスの建築を決定

1982年7月建築設計をコンペ、世界から750人応募、その中から

1983年11月17日、ウルグァイ出身のカナダ人建築家「カルロス・オット」が選ばれた。

1984年4月着工

課題：カルロス・オットに与えられた課題：

近代的で機能性に富んだ新しいオペラ座の建設

規模：総床面積　15万m^2　高さ48m

大きさ　2700人収容の大ホール、600人収容の階段状ホール

将来600人～1000人収容の変形可能ホールを予定

特徴：素晴らしい舞台背後のスペース

舞台道具用のアトリエ、セットの保管スペース、大ホールと同じ舞台をもったリハーサル用ホール（画期的な試み）、周辺環境の整備にも配慮

特徴を生かした効果：

世界中の一流の指揮者、舞台美術家等は、この新しい建物の可能性を試したいと望んでいる。

（資料）パリ再開発大プロジェクト特別号